

第647回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 立山カルデラ砂防博物館

…………… 富山県中新川郡立山町芦峯寺

- 立山カルデラは、火山活動と侵食作用による独特の自然をもつ日本でも有数の大規模崩壊地で、立山の自然史を解くために重要な地域。
- 立山カルデラは、多量の崩壊土砂が残留し常願寺川流域に度重なる土砂災害をもたらしてきた。
- 土砂災害から富山平野を守るために100年以上も前から日本でも屈指の砂防事業が継続されている。
- 当博物館は、「立山カルデラの自然と歴史」及び「砂防」の二つのテーマを「知られざるもうひとつの立山」と位置づけ、立山カルデラにおける人と自然の関わりを広く紹介することを目的としている。



2 本宮砂防堰堤〔国重要文化財〕

…………… 富山市小見～中新川郡立山町芦峯寺

- 本宮砂防堰堤は、常願寺川の中流部に位置し、平野部の手前で土砂の流出防止や調節により災害を防ぐことを目的に建設された。
- 内務省が策定中の改修計画に基づき、富山県が緊急事業として昭和10年（1935）に県単独事業として堰堤の施行を内務省に委託。
- 本宮砂防堰堤は、昭和10年4月に設立された内務省新潟土木出張所により着工され、2年後の昭和12年3月に完成。
- 高さ22m、長さ107.4mで500万 m^3 という日本最大級の貯砂量を有する。
- 本宮砂防堰堤を中心として、豊かな自然環境に恵まれた水辺の体験型学習フィールドとして「水辺の楽校」を整備。



3 富山県美術館 【平成29年全建賞】

…………… 富山市木場町

- 移転新築前の富山県立近代美術館は、開館から30年以上が経過し、耐震性の不足等、施設のハード面での課題や発信力が弱く、高く評価されている美術館のコレクションが十分活用されていない等ソフト面の課題があった。
- 「県立文化施設・整備充実検討委員会」からの提言を受け、富山駅北にある県立の富岩運河環水公園西地区に移転新築。
- 富岩運河環水公園内に立地する特性を生かし、公園施設と一体の景観づくり
- 地域の地場産品を建物内外に使用し、富山の産業、技術を展示する役割を持たせた。
- 屋上庭園は「オノマトペ」という遊具が8つあり、これは美術館建設地に元々あった施設が子供たちの遊び場だったため、富山県知事が子供たちのために遊び場を残すことを要望し、整備した。
- 作品を保管する収蔵庫は洪水や、津波からの被害を受けないよう、2階・3階に設けた。



4 富山駅付近連続立体交差事業、富山駅周辺地区土地地区画整理事業、路面電車南北接続事業

……………富山市明輪町付近

(富山駅付近連続立体交差事業)

- ・ 県都にふさわしい交通拠点の整備や、鉄道によって分断されていた南北市街地の一体化を目的に、在来線を高架化する連続立体交差事業を実施。
- ・ 北陸新幹線事業とあわせ、あいの風とやま鉄道線やJ R高山本線の高架化事業を実施しており、あいの風鉄道上り線及びJ R高山本線が平成 27 年 4 月に高架供用。あいの風鉄道下り線は平成 31 年 3 月に高架供用予定。
- ・ 新幹線事業と在来線高架事業を同時に行うことにより、高架後の駅がコンパクトな駅となることや、在来線営業のための仮駅の移設を 1 回のみとすることで工事費を低減。
- ・ 富山駅付近では、旧 J R 富山港線を路面電車化したうえで、上り線と下り線を一括施工する場合、施工幅が約 115m 必要であったが幅約 100m しか確保できず、上り線を施工し、その後、仮線の上り線を撤去してそのスペースに下り線を施工する 2 段階施工を実施。
- ・ 新幹線駅と在来線駅の間には仕切壁を設けず、雪の立山杉をイメージした白色の一本柱やガラスファサードを設けた統一的なデザインとし、明るく開放的な一体感を持たせた駅。



富山駅北口 (H30. 6)

(富山駅周辺地区土地地区画整理事業)

- ・ 富山駅周辺地区の一体的なまちづくりを推進するため、駅前広場や都市計画道路などの基盤整備とあわせ、駅周辺における土地利用の高度化を図る。
- ・ 一般車を西口高架下に分離し、南北駅前広場はバス・タクシーの公共交通に限定することで、ゆとりある歩行者空間を創出。
- ・ 富山駅南口広場では、バス・タクシーロータリーを機能的にレイアウトし、特徴的な曲線を持つシェルターを配置。
- ・ 市民、来街者へ安らぎと潤いのある公共空間の提供を図る。



富山駅南口

(路面電車南北接続事業)

- ・ 富山市は富山駅の南側を富山地方鉄道富山軌道線、北側を富山ライトレール富山港線の 2 つの路面電車が走る。
- ・ 富山駅の交通結節機能の強化や都心地区と北部地区とのアクセス強化など利便性向上を図るため、富山駅南北の路面電車を接続。
- ・ 接続区間には制振軌道を採用するとともに、高架下停留場はバリアフリー対応とし、また、地場産材であるアルミや工芸ガラスの活用など質の高い軌道空間の創出を図る。

